

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	あいち造形デザイン専門学校
設置者名	学校法人電波学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による授 業科目の単位数 又は授業時数	省令で定める 基準単位数又 は授業時数	配 置 困 難
文化教養 専門	グラフィックデザイン科 グラフィック・広告専攻	夜・通 信	224 単位時間	160 単位時間	
	グラフィックデザイン科 CG専攻	夜・通 信	224 単位時間	160 単位時間	
	企画デザイン科	夜・通 信	192 単位時間	160 単位時間	
	イラストレーション科 イラスト・絵本専攻	夜・通 信	224 単位時間	160 単位時間	
	イラストレーション科 コミックアート専攻	夜・通 信	192 単位時間	160 単位時間	
	まんが科	夜・通 信	192 単位時間	160 単位時間	
	造形デザイン科 アクセサリー・フィギュア 専攻	夜・通 信	256 単位時間	160 単位時間	
	造形デザイン科 雑貨・インテリア専攻	夜・通 信	192 単位時間	160 単位時間	
	研究科(1年課程)	夜・通 信	128 単位時間	80 単位時間	
備考 グラフィックデザイン科、企画デザイン科、イラストレーション科、まんが科、 造形デザイン科は、2019年度より募集を停止					
文化教養 専門	デザイン学科 グラフィック・広告コース	夜・通 信	224 単位時間	160 単位時間	
	デザイン学科 造形デザインコース	夜・通 信	224 単位時間	160 単位時間	
	デザイン学科 企画デザインコース	夜・通 信	224 単位時間	160 単位時間	
	クリエイティブ学科 コミックアートコース	夜・通 信	224 単位時間	160 単位時間	
	クリエイティブ学科 イラスト・絵本コース	夜・通 信	224 単位時間	160 単位時間	
	クリエイティブ学科 マンガコース	夜・通 信	224 単位時間	160 単位時間	
備考 2020年度より設置					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本校事務局にて、刊行物を備え付け閲覧の求めに応じる形式を採用
--------------------------------

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
-----

(困難である理由)
-----------

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	あいち造形デザイン専門学校
設置者名	学校法人電波学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人電波学園公式 Web サイト「事業報告書」 <a href="http://www.denpa.jp">http://www.denpa.jp</a>
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	弁護士	R1. 10. 1～ R5. 09. 30	労務・法務担当
非常勤	税理士	R1. 10. 1～ R5. 09. 30	財務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	あいち造形デザイン専門学校
設置者名	学校法人電波学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>1) 授業計画(シラバス)の作成過程          あらかじめ定められた「学校教育目標」と「各科の教育目標」に沿って、前期及び後期の授業計画(シラバス)を授業担当者が作成する。作成に際しては、各科の専任教員を中心に非常勤講師と授業内容を確認し合い計画を立てる。</p> <p>2) 授業計画(シラバス)の作成時期          前・後期それぞれ、授業が始まる前に作成する。前期＝3月中。後期＝9月中。</p> <p>3) 授業計画(シラバス)の公表方法と時期          シラバスの公表方法は、本校HP上(インターネット)で広く一般に公表している。進学希望者等も閲覧できるように対応している。          公表時期は、前期・後期共5月よりHP上で公表予定としている。</p> <p>4) 年間の授業計画          1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ16回32時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。</p>	
授業計画書の公表方法	あいち造形デザイン専門学校 WEB サイト「文部科学省関連文書」 <a href="http://www.design.ac.jp">http://www.design.ac.jp</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

1) 成績評価の方法と基準

「講義科目」、「実技科目」、「演習科目」それぞれに成績評価方法を定め、シラバス内に記載している。

「講義科目」

各単元終了時に確認テストを実施し、学期末のテスト【100点満点】を行う。  
採点基準は、100点～90点=S、89点～80点=A、79点～70点=B、69点～60点=C、60点未満=D（不合格）とする。

「実技科目」

作品制作の発想の段階で、幅広いアイデアから検討されている【20点】。目的に沿ったコンセプトを立て、デザイン的な構成・配色や表現ができている【80点】。この2点の合計で、作品評価【100点満点】とする。作品課題が複数の場合は、作品評価点（各100点満点）の総合計を課題数で割った平均とする。科目の最終評価点は、作品評価に0.8を乗じたものに、平常点【20点】を加算して算出する。平常点は、欠課1回に対し1点減点とする。採点基準は、100点～90点=S、89点～80点=A、79点～70点=B、69点～60点=C、60点未満=D（不合格）とする。

「演習科目」

評価方法は、実技科目に準ずる。

2) 学修成果の履修認定、

各担任と教務担当者及び校長により、一年生は、3月（修業年限の最終月）に進級審査会議を、また二年生は2月（修業年限の最終月）に卒業審査会議を実施し、進級と卒業に必要な単位取得がされているか確認し、履修認定を与えている。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- 1) 授業科目ごとの成績評価を点数（100点満点）に換算した上で、取得した点数の平均を求める仕組みを導入している。
- 2) 全教科の評価は、100点満点とし、60点以上を合格点とする。
- 3) 複数の教科目担当教員によって行われる科目の成績については、複数の教科目担当教員の中から責任者を定め、責任者が評定する。
- 4) 「客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料」は、以下ホームページへ掲載している。

客観的な指標の  
算出方法の公表方法

あいち造形デザイン専門学校 WEB サイト「文部科学省関連文書」  
<http://www.design.ac.jp>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

1) 卒業認定方針

卒業の認定に関しては、以下ホームページへ掲載している「ディプロマポリシー」に基づき公表するとともに、適切に実施している。

2) 卒業の認定基準

卒業の認定は、以下すべてを満たした者とする。

その学年を通じ校長の定める出席すべき日数の10分の8以上に出席し、かつ所定の全教科目を受験し、その評価がいずれも60点以上であること。

出席日数は、出席すべき日数から欠席日数、欠課・早退3回、および遅刻6回をもって欠席1日と換算する欠席日数を減じて算出し、校長の定める出席すべき日数の8割以上の出席を満たすものとする。学年を通じ学費を完納していること。

卒業の認定に関する  
方針の公表方法

あいち造形デザイン専門学校 WEB サイト「文部科学省関連文書」  
<http://www.design.ac.jp>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	あいち造形デザイン専門学校
設置者名	学校法人電波学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人電波学園公式 Web サイト <a href="http://www.denpa.jp">http://www.denpa.jp</a>
収支計算書又は損益計算書	学校法人電波学園公式 Web サイト <a href="http://www.denpa.jp">http://www.denpa.jp</a>
財産目録	学校法人電波学園公式 Web サイト <a href="http://www.denpa.jp">http://www.denpa.jp</a>
事業報告書	学校法人電波学園公式 Web サイト <a href="http://www.denpa.jp">http://www.denpa.jp</a>
監事による監査報告（書）	学校法人電波学園公式 Web サイト <a href="http://www.denpa.jp">http://www.denpa.jp</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	グラフィックデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1920 単位時間	96 単位時間	480 単位時間	1344 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		35人	1人	5人	10人	15人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） あらかじめ定められた「学校教育目標」と「各科の教育目標」に沿って、前期及び後期の授業計画（シラバス）を授業担当者が作成する。 1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ16回32時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。
成績評価の基準・方法
（概要） 「講義科目」は、各単元終了時に確認テストを実施し、学期末のテスト【100点満点】を行う。また「実技科目」、「演習科目」は、【100点満点】の最終評価点の得点に対し0.8を乗じたものに、平常点【20点】を加算して算出する。採点基準は、100点～90点=S、89点～80点=A、79点～70点=B、69点～60点=C、60点未満=D（不合格）とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） 卒業の認定は、以下すべてを満たした者とする。 その学年を通じ校長の定める出席すべき日数の10分の8以上に出席し、かつ所定の全教科目を受験し、その評価がいずれも60点以上であること。 学年を通じ学費を完納していること。
学修支援等

<p>(概要)</p> <p>クラス担任制を敷いて学生個々の個別相談、学習指導を行っている。また、「デザイントライアル」は担任が運営する授業として設定されている。この時間を使って、専門分野の学習指導や生活への助言を行っている。</p>
---

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
46人 (100%)	2人 (4.3%)	36人 (78.3%)	8人 (17.4%)
(主な就職、業界等) デザイン事務所、印刷会社、Web制作会社、サインディスプレイ会社			
(就職指導内容) 一年前期「ビジネスマナー」、一年後期「一般教養」、二年前期「就職特講」を就職担当教員と担任とで交互に実施している。加えて、不定期ではあるが企業様に来校いただき「特別講義」を実施している。また、二年後期においては学内企業展を実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 色彩検定：受験者4名、合格者4名			
(備考)（任意記載事項） 2019年度より募集停止			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
35人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談と日々の授業や生活の中で、学習や生活に不調が生じていないか、常に担任が観察するように努め、保護者会を年1回実施しており、保護者とも機会あるごとにコミュニケーションをとり、退学に繋がらないように心掛けている。学習効果が発揮しやすい授業メニューとして、「産学連携授業」や「コンペティション授業」があるので、前向きにそれらに参加させるように指導している。		



分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	企画デザイン科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1920 単位時間	224 単位時間	448 単位時間	1248 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		17人	0人	4人	6人	10人	

#### カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

##### （概要）

あらかじめ定められた「学校教育目標」と「各科の教育目標」に沿って、前期及び後期の授業計画（シラバス）を授業担当者が作成する。

1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ16回32時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。

#### 成績評価の基準・方法

##### （概要）

「講義科目」は、各単元終了時に確認テストを実施し、学期末のテスト【100点満点】を行う。また「実技科目」、「演習科目」は、【100点満点】の最終評価点の得点に対し0.8を乗じたものに、平常点【20点】を加算して算出する。採点基準は、100点～90点=S、89点～80点=A、79点～70点=B、69点～60点=C、60点未満=D（不合格）とする。

#### 卒業・進級の認定基準

##### （概要）

卒業の認定は、以下すべてを満たした者とする。

その学年を通じ校長の定める出席すべき日数の10分の8以上に出席し、かつ所定の全教科目を受験し、その評価がいずれも60点以上であること。

学年を通じ学費を完納していること。

#### 学修支援等

##### （概要）

クラス担任制を敷いて学生個々の個別相談、学習指導を行っている。また、「デザイントリアル」は担任が運営する授業として設定されている。この時間を使って、専門分野の学習指導や生活への助言を行っている。

#### 卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
15人 (100%)	0人 (0%)	14人 (93.3%)	1人 (6.7%)
(主な就職、業界等) デザイン事務所、印刷会社、Web制作会社、メーカー広報室、雑貨メーカー			
(就職指導内容) 一年前期「ビジネスマナー」、一年後期「一般教養」、二年前期「就職特講」を就職担当教員と担任とで交互に実施している。加えて、不定期ではあるが企業に来校いただき「特			

別講義」を実施している。また、二年後期においては学内企業展を実施している。
(主な学修成果(資格・検定等)) 色彩検定:受験者8名、合格者7名
(備考)(任意記載事項) 2019年度より募集停止

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談と日々の授業や生活の中で、学習や生活に不調が生じていないか、常に担任が観察するように努め、保護者会を年1回実施しており、保護者とも機会あるごとにコミュニケーションをとり、退学に繋がらないように心掛けている。学習効果が発揮しやすい授業メニューとして、「産学連携授業」や「コンペティション授業」があるので、前向きにそれらに参加させるように指導している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	イラストレーション科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
2年		1920 単位時間	96 単位時間	224 単位時間	1600 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員 数	兼任教員数	総教員数	
40人		68人	0人	7人	17人	24人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) あらかじめ定められた「学校教育目標」と「各科の教育目標」に沿って、前期及び後期の授業計画(シラバス)を授業担当者が作成する。 1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ16回32時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。
成績評価の基準・方法
(概要) 「講義科目」は、各単元終了時に確認テストを実施し、学期末のテスト【100点満点】を行う。また「実技科目」、「演習科目」は、【100点満点】の最終評価点の得点に対し0.8を乗じたものに、平常点【20点】を加算して算出する。採点基準は、100点~90点=S、89点~80点=A、79点~70点=B、69点~60点=C、60点未満=D(不合格)とする。
卒業・進級の認定基準

(概要)  
卒業の認定は、以下すべてを満たした者とする。  
その学年を通じ校長の定める出席すべき日数の10分の8以上に出席し、かつ所定の全教科目を受験し、その評価がいずれも60点以上であること。  
学年を通じ学費を完納していること。

学修支援等  
(概要)  
クラス担任制を敷いて学生個々の個別相談、学習指導を行っている。また、「イラストライアル」は担任が運営する授業として設定されている。この時間を使って、専門分野の学習指導や生活への助言を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
73人 (100%)	7人 (9.6%)	46人 (63.0%)	20人 (27.4%)

(主な就職、業界等)  
デザイン事務所、印刷会社、Web制作会社、メーカー広報室、雑貨メーカー

(就職指導内容)  
一年前期「ビジネスマナー」、一年後期「一般教養」、二年前期「就職特講」を就職担当教員と担任とで交互に実施している。加えて、不定期ではあるが企業に来校いただき「特別講義」を実施している。また、二年後期においては学内企業展を実施している。

(主な学修成果(資格・検定等))  
色彩検定：受験者10名、合格者7名

(備考) (任意記載事項)  
2019年度より募集停止

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
68人	0人	0%

(中途退学の主な理由)

(中退防止・中退者支援のための取組)  
定期的な個人面談と日々の授業や生活の中で、学習や生活に不調が生じていないか、常に担任が観察するように努め、保護者会を年1回実施しており、保護者とも機会あるごとにコミュニケーションをとり、退学に繋がらないように心掛けている。学習効果が発揮しやすい授業メニューとして、「産学連携授業」や「コンペティション授業」があるので、前向きにそれらに参加させるように指導している。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	まんが科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1920 単位時間	96 単位時間	384 単位時間	1440 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
	単位時間						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		17人	0人	3人	5人	8人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

あらかじめ定められた「学校教育目標」と「各科の教育目標」に沿って、前期及び後期の授業計画（シラバス）を授業担当者が作成する。

1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ16回32時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。

成績評価の基準・方法

（概要）

「講義科目」は、各単元終了時に確認テストを実施し、学期末のテスト【100点満点】を行う。また「実技科目」、「演習科目」は、【100点満点】の最終評価点の得点に対し0.8を乗じたものに、平常点【20点】を加算して算出する。採点基準は、100点～90点=S、89点～80点=A、79点～70点=B、69点～60点=C、60点未満=D（不合格）とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業の認定は、以下すべてを満たした者とする。  
その学年を通じ校長の定める出席すべき日数の10分の8以上に出席し、かつ所定の全教科目を受験し、その評価がいずれも60点以上であること。  
学年を通じ学費を完納していること。

学修支援等

（概要）

クラス担任制を敷いて学生個々の個別相談、学習指導を行っている。また、「まんがトライアル」は担任が運営する授業として設定されている。この時間を使って、専門分野の学習指導や生活への助言を行っている。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
22人 (100%)	1人 (4.5%)	9人 (41.0%)	12人 (54.5%)
(主な就職、業界等) 漫画家アシスタント、コンテンツ制作会社、Web制作会社			

(就職指導内容) 一年前期「ビジネスマナー」、一年後期「一般教養」、二年前期「就職特講」を就職担当教員と担任とで交互に実施している。加えて、不定期ではあるが企業に来校いただき「特別講義」を実施している。また、二年後期においては学内企業展を実施している。
(主な学修成果(資格・検定等)) 特になし
(備考) (任意記載事項) 2019年度より募集停止

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
17人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談と日々の授業や生活の中で、学習や生活に不調が生じていないか、常に担任が観察するように努め、保護者会を年1回実施しており、保護者とも機会あるごとにコミュニケーションをとり、退学に繋がらないように心掛けている。学習面では「まんが制作」において、持ち込みや投稿を意識して制作指導を行い、夏には希望者を東京まで引率しても出版社への原稿持ち込みを行っている。学生には前向きにそれらに参加させるように指導している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	造形デザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
2年		1920 単位時間	64 単位時間	288 単位時間	1568 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		30人	0人	4人	9人	13人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) あらかじめ定められた「学校教育目標」と「各科の教育目標」に沿って、前期及び後期の授業計画(シラバス)を授業担当者が作成する。 1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ16回32時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。
成績評価の基準・方法
(概要) 「講義科目」は、各単元終了時に確認テストを実施し、学期末のテスト【100点満点】を行う。また「実技科目」、「演習科目」は、【100点満点】の最終評価点の得点に対し0.8を乗じたものに、平常点【20点】を加算して算出する。採点基準は、100点～90点=S、89点～80点=A、79点～70点=B、69点～60点=C、60点未満=D(不合格)とする。

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業の認定は、以下すべてを満たした者とする。 その学年を通じ校長の定める出席すべき日数の10分の8以上に出席し、かつ所定の全教科目を受験し、その評価がいずれも60点以上であること。 学年を通じ学費を完納していること。
学修支援等
(概要) クラス担任制を敷いて学生個々の個別相談、学習指導を行っている。また、「デザイントライアル」は担任が運営する授業として設定されている。この時間を使って、専門分野の学習指導や生活への助言を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
34人 (100%)	1人 (2.9%)	24人 (70.6%)	9人 (26.5%)

(主な就職、業界等)  
家具製造、ジュエリー製造・販売、ディスプレイデザイン制作会社、生活雑貨企画・製造会社、舞台美術、フィギュア制作会社

(就職指導内容)  
一年前期「ビジネスマナー」、一年後期「一般教養」、二年前期「就職特講」を就職担当教員と担任とで交互に実施している。加えて、不定期ではあるが企業に来校いただき「特別講義」を実施している。また、二年後期においては学内企業展を実施している。

(主な学修成果(資格・検定等))  
色彩検定：受験者9名、合格者5名

(備考) (任意記載事項)  
2019年度より募集停止

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
30人	0人	0%

(中途退学の主な理由)

(中退防止・中退者支援のための取組)  
定期的な個人面談と日々の授業や生活の中で、学習や生活に不調が生じていないか、常に担任が観察するように努め、保護者会を年1回実施しており、保護者とも機会あるごとにコミュニケーションをとり、退学に繋がらないように心掛けている。学習効果が発揮しやすい授業メニューとして、「産学連携授業」や「コンペティション授業」があるので、前向きにそれらに参加させるように指導している。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	研究科				
修業 年限	昼 夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼 間	936 単位数	0 単位数	576 単位数	360 単位数	0 単位数	0 単位数
			単位数				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員 数	兼任教員数	総教員数	
30人		10人	0人	6人	5人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

<p>（概要）</p> <p>あらかじめ定められた「学校教育目標」と「各科の教育目標」に沿って、前期及び後期の授業計画（シラバス）を授業担当者が作成する。</p> <p>1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ16回32時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>（概要）</p> <p>「講義科目」は、各単元終了時に確認テストを実施し、学期末のテスト【100点満点】を行う。また「実技科目」、「演習科目」は、【100点満点】の最終評価点の得点に対し0.8を乗じたものに、平常点【20点】を加算して算出する。採点基準は、100点～90点=S、89点～80点=A、79点～70点=B、69点～60点=C、60点未満=D（不合格）とする。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>（概要）</p> <p>卒業の認定は、以下すべてを満たした者とする。</p> <p>その学年を通じ校長の定める出席すべき日数の10分の8以上に出席し、かつ所定の全教科目を受験し、その評価がいずれも60点以上であること。</p> <p>学年を通じ学費を完納していること。</p>
<p>学修支援等</p> <p>（概要）</p> <p>クラス担任制を敷いて学生個々の個別相談、学習指導を行っている。また、「デザイントライアル」は担任が運営する授業として設定されている。この時間を使って、専門分野の学習指導や生活への助言を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11人 (100%)	0人 (0%)	2人 (18.2%)	9人 (81.8%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>デザイン事務所、印刷会社、Web制作会社、サインディスプレイ会社</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>「ビジネスマナー」を就職担当教員と連携して担当教員が実施している。また、不定期ではあるが企業様を招き「特別講義」を実施している。後期には学内企業展を実施している。</p>			

(主な学修成果(資格・検定等)) 特になし
(備考)(任意記載事項) 令和2年度より生徒総定員数が30名(学則変更)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
11人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談と日々の授業や生活の中で、学習や生活に不調が生じていないか、常に担任が観察するように努め、保護者会を年1回実施しており、保護者とも機会あるごとにコミュニケーションをとり、退学に繋がらないように心掛けている。学習効果が発揮しやすい授業メニューとして、「産学連携授業」や「コンペティション授業」があるので、前向きにそれらに参加させるように指導している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	デザイン学科 グラフィック・広告コース				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼間		講義	演習	実習	実験	実技
2年		1920 単位時間	96 単位時間	576 単位時間	1248 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		33人	0人	5人	14人	19人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) あらかじめ定められた「学校教育目標」と「各科の教育目標」に沿って、前期及び後期の授業計画(シラバス)を授業担当者が作成する。 1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ16回32時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。
成績評価の基準・方法
(概要) 「講義科目」は、各単元終了時に確認テストを実施し、学期末のテスト【100点満点】を行う。また「実技科目」、「演習科目」は、【100点満点】の最終評価点の得点に対し0.8を乗じたものに、平常点【20点】を加算して算出する。採点基準は、100点~90点=S、89点~80点=A、79点~70点=B、69点~60点=C、60点未満=D(不合格)とする。
卒業・進級の認定基準



(概要)  
卒業の認定は、以下すべてを満たした者とする。  
その学年を通じ校長の定める出席すべき日数の10分の8以上に出席し、かつ所定の全教科目を受験し、その評価がいずれも60点以上であること。  
学年を通じ学費を完納していること。

学修支援等  
(概要)  
クラス担任制を敷いて学生個々の個別相談、学習指導を行っている。また、「デザイントリアル」は担任が運営する授業として設定されている。この時間を使って、専門分野の学習指導や生活への助言を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人	人	人	人
(主な就職、業界等) デザイン事務所、印刷会社、Web制作会社、サインディスプレイ会社			
(就職指導内容) 「キャリアガイダンス」を就職担当教員が実施している。また不定期ではあるが企業様に来校いただき「特別講義」を実施している。後期には学内企業展を実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考)（任意記載事項） 2020年度より設置			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
33人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談と日々の授業や生活の中で、学習や生活に不調が生じていないか、常に担任が観察するように努め、保護者会を年1回実施予定しており、保護者とも機会あるごとにコミュニケーションをとり、退学に繋がらないように心掛ける。学習効果が発揮しやすい授業メニューとして、「産学連携授業」や「コンペティション授業」があるので、前向きにそれらに参加させるように指導する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	デザイン学科 造形デザインコース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1920 単位時間	96 単位時間	576 単位時間	1248 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		30人	0人	8人	10人	18人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

あらかじめ定められた「学校教育目標」と「各科の教育目標」に沿って、前期及び後期の授業計画（シラバス）を授業担当者が作成する。

1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ16回32時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。

成績評価の基準・方法

（概要）

「講義科目」は、各単元終了時に確認テストを実施し、学期末のテスト【100点満点】を行う。また「実技科目」、「演習科目」は、【100点満点】の最終評価点の得点に対し0.8を乗じたものに、平常点【20点】を加算して算出する。採点基準は、100点～90点=S、89点～80点=A、79点～70点=B、69点～60点=C、60点未満=D（不合格）とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業の認定は、以下すべてを満たした者とする。  
その学年を通じ校長の定める出席すべき日数の10分の8以上に出席し、かつ所定の全教科目を受験し、その評価がいずれも60点以上であること。  
学年を通じ学費を完納していること。

学修支援等

（概要）

クラス担任制を敷いて学生個々の個別相談、学習指導を行っている。担任が運営する授業の中で、専門分野の学習指導や生活への助言を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人	人	人	人
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>家具製造、ジュエリー製造・販売、ディスプレイデザイン制作会社、生活雑貨企画・製造会社、舞台美術、フィギュア制作会社</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>「キャリアガイダンス」を就職担当教員が実施している。また不定期ではあるが企業様に来校いただき「特別講義」を実施している。後期には学内企業展を実施している。</p>			

(主な学修成果 (資格・検定等) )
(備考) (任意記載事項) 2020 年度より設置

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
29 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談と日々の授業や生活の中で、学習や生活に不調が生じていないか、常に担任が観察するように努め、保護者会を年 1 回実施予定しており、保護者とも機会あるごとにコミュニケーションをとり、退学に繋がらないように心掛ける。学習効果が発揮しやすい授業メニューとして、「産学連携授業」や「コンペティション授業」があるので、前向きにそれらに参加させるように指導する。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養	文化教養専門課程	デザイン学科 企画デザインコース				
修業年限	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数  1920 単位時間	開設している授業の種類				
昼夜		講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	96 単位時間	576 単位時間	1248 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20 人	23 人	0 人	10 人	7 人	17 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) あらかじめ定められた「学校教育目標」と「各科の教育目標」に沿って、前期及び後期の授業計画 (シラバス) を授業担当者が作成する。 1 年間を前期、後期の 2 期制とし、半期 90 分 1 コマ 16 回 32 時間を 2 単位として各科目担当者は授業計画をたてる。
成績評価の基準・方法
(概要) 「講義科目」は、各単元終了時に確認テストを実施し、学期末のテスト【100 点満点】を行う。また「実技科目」、「演習科目」は、【100 点満点】の最終評価点の得点に対し 0.8 を乗じたものに、平常点【20 点】を加算して算出する。採点基準は、100 点～90 点=S、89 点～80 点=A、79 点～70 点=B、69 点～60 点=C、60 点未満=D (不合格) とする。
卒業・進級の認定基準

<p>(概要)</p> <p>卒業の認定は、以下すべてを満たした者とする。 その学年を通じ校長の定める出席すべき日数の10分の8以上に出席し、かつ所定の全教科目を受験し、その評価がいずれも60点以上であること。 学年を通じ学費を完納していること。</p>
<p>学修支援等</p> <p>クラス担任制を敷いて学生個々の個別相談、学習指導を行っている。また、「デザイントライアル」は担任が運営する授業として設定されている。この時間を使って、専門分野の学習指導や生活への助言を行う。</p>

<p>卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）</p>			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人	人	人	人
<p>(主な就職、業界等)</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>「キャリアガイダンス」を就職担当教員が実施している。また不定期ではあるが企業様に来校いただき「特別講義」を実施している。後期には学内企業展を実施している。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>デザイン事務所、印刷会社、Web制作会社、メーカー広報室、雑貨メーカー</p>			
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>2020年度より設置</p>			

<p>中途退学の現状</p>		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23人	0人	0%
<p>(中途退学の主な理由)</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>定期的な個人面談と日々の授業や生活の中で、学習や生活に不調が生じていないか、常に担任が観察するように努め、保護者会を年1回実施予定しており、保護者とも機会あるごとにコミュニケーションをとり、退学に繋がらないように心掛ける。学習効果が発揮しやすい授業メニューとして、「産学連携授業」や「コンペティション授業」があるので、前向きにそれらに参加させるように指導する。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	クリエイティブ学科 コミックアートコース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1920 単位時間	96 単位時間	480 単位時間	1344 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		70人	0人	7人	15人	22人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

あらかじめ定められた「学校教育目標」と「各科の教育目標」に沿って、前期及び後期の授業計画（シラバス）を授業担当者が作成する。

1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ16回32時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。

成績評価の基準・方法

（概要）

「講義科目」は、各単元終了時に確認テストを実施し、学期末のテスト【100点満点】を行う。また「実技科目」、「演習科目」は、【100点満点】の最終評価点の得点に対し0.8を乗じたものに、平常点【20点】を加算して算出する。採点基準は、100点～90点=S、89点～80点=A、79点～70点=B、69点～60点=C、60点未満=D（不合格）とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業の認定は、以下すべてを満たした者とする。

その学年を通じ校長の定める出席すべき日数の10分の8以上に出席し、かつ所定の全教科目を受験し、その評価がいずれも60点以上であること。

学年を通じ学費を完納していること。

学修支援等

（概要）

クラス担任制を敷いて学生個々の個別相談、学習指導を行っている。担任が運営する授業の中で、専門分野の学習指導や生活への助言を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人	人	人	人

（主な就職、業界等）

デザイン事務所、印刷会社、Web制作会社、メーカー広報室、雑貨メーカー

（就職指導内容）

「キャリアガイダンス」を就職担当教員が実施している。また不定期ではあるが企業様に来校いただき「特別講義」を実施している。後期には学内企業展を実施している。

(主な学修成果(資格・検定等))
(備考) (任意記載事項) 2020年度より設置

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
70人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 定期的な個人面談と日々の授業や生活の中で、学習や生活に不調が生じていないか、常に担任が観察するように努め、保護者会を年1回実施予定しており、保護者とも機会あるごとにコミュニケーションをとり、退学に繋がらないように心掛ける。学習効果が発揮しやすい授業メニューとして、「産学連携授業」や「コンペティション授業」があるので、前向きにそれらに参加させるように指導する。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	クリエイティブ学科 イラスト・絵本コース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1920 単位時間	96 単位時間	480 単位時間	1344 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		13人	0人	7人	10人	17人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) あらかじめ定められた「学校教育目標」と「各科の教育目標」に沿って、前期及び後期の授業計画(シラバス)を授業担当者が作成する。 1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ16回32時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。
成績評価の基準・方法
(概要) 「講義科目」は、各単元終了時に確認テストを実施し、学期末のテスト【100点満点】を行う。また「実技科目」、「演習科目」は、【100点満点】の最終評価点の得点に対し0.8を乗じたものに、平常点【20点】を加算して算出する。採点基準は、100点~90点=S、89点~80点=A、79点~70点=B、69点~60点=C、60点未満=D(不合格)とする。
卒業・進級の認定基準

(概要)  
卒業の認定は、以下すべてを満たした者とする。  
その学年を通じ校長の定める出席すべき日数の10分の8以上に出席し、かつ所定の全教科目を受験し、その評価がいずれも60点以上であること。  
学年を通じ学費を完納していること。

学修支援等  
(概要)  
クラス担任制を敷いて学生個々の個別相談、学習指導を行っている。また、「デザイントリアル」は担任が運営する授業として設定されている。この時間を使って、専門分野の学習指導や生活への助言を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人	人	人	人

(主な就職、業界等)  
デザイン事務所、印刷会社、Web制作会社、メーカー広報室、雑貨メーカー

(就職指導内容)  
「キャリアガイダンス」を就職担当教員が実施している。また不定期ではあるが企業様に来校いただき「特別講義」を実施している。後期には学内企業展を実施している。

(主な学修成果（資格・検定等）)

(備考)（任意記載事項）  
2020年度より設置

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13人	0人	0%

(中途退学の主な理由)

(中退防止・中退者支援のための取組)  
定期的な個人面談と日々の授業や生活の中で、学習や生活に不調が生じていないか、常に担任が観察するように努め、保護者会を年1回実施予定しており、保護者とも機会あるごとにコミュニケーションをとり、退学に繋がらないように心掛ける。学習効果が発揮しやすい授業メニューとして、「産学連携授業」や「コンペティション授業」があるので、前向きにそれらに参加させるように指導する。

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	クリエイティブ学科 マンガコース				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼 間	1920 単位時間	96 単位時間	480 単位時間	1344 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
	単位時間						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		19人	0人	7人	6人	13人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

あらかじめ定められた「学校教育目標」と「各科の教育目標」に沿って、前期及び後期の授業計画（シラバス）を授業担当者が作成する。  
1年間を前期、後期の2期制とし、半期90分1コマ16回32時間を2単位として各科目担当者は授業計画をたてる。

成績評価の基準・方法

（概要）

「講義科目」は、各単元終了時に確認テストを実施し、学期末のテスト【100点満点】を行う。また「実技科目」、「演習科目」は、【100点満点】の最終評価点の得点に対し0.8を乗じたものに、平常点【20点】を加算して算出する。採点基準は、100点～90点=S、89点～80点=A、79点～70点=B、69点～60点=C、60点未満=D（不合格）とする。

卒業・進級の認定基準

（概要）

卒業の認定は、以下すべてを満たした者とする。  
その学年を通じ校長の定める出席すべき日数の10分の8以上に出席し、かつ所定の全教科目を受験し、その評価がいずれも60点以上であること。  
学年を通じ学費を完納していること。

学修支援等

（概要）

クラス担任制を敷いて学生個々の個別相談、学習指導を行っている。また、「マンガトリアル」は担任が運営する授業として設定されている。この時間を使って、専門分野の学習指導や生活への助言を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人	人	人	人
(主な就職、業界等) 漫画家アシスタント、コンテンツ制作会社、Web制作会社			



<p>(就職指導内容)</p> <p>「キャリアガイダンス」を就職担当教員が実施している。また不定期ではあるが企業様に来校いただき「特別講義」を実施している。後期には学内企業展を実施している。</p>
<p>(主な学修成果 (資格・検定等) )</p>
<p>(備考) (任意記載事項)</p> <p>2020年度より設置</p>

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>定期的な個人面談と日々の授業や生活の中で、学習や生活に不調が生じていないか、常に担任が観察するように努め、保護者会を年1回実施予定しており、保護者とも機会あるごとにコミュニケーションをとり、退学に繋がらないように心掛ける。学習効果が発揮しやすい授業メニューとして、「産学連携授業」や「コンペティション授業」があるので、前向きにそれらに参加させるように指導する。</p>		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
グラフィックデザイン科	170,000 円	790,000 円	190,000 円	2019 年度より募集停止
企画デザイン科	170,000 円	790,000 円	190,000 円	2019 年度より募集停止
イラストレーション科	170,000 円	790,000 円	190,000 円	2019 年度より募集停止
まんが科	170,000 円	790,000 円	190,000 円	2019 年度より募集停止
造形デザイン科	170,000 円	790,000 円	190,000 円	2019 年度より募集停止
研究科	100,000 円	490,000 円	190,000 円	
デザイン学科	170,000 円	790,000 円	190,000 円	2020 年度から設置
クリエイティブ学科	170,000 円	790,000 円	190,000 円	2020 年度から設置
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
あいち造形デザイン専門学校 WEB サイト 「文部科学省関連文書」 <a href="http://www.design.ac.jp">http://www.design.ac.jp</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<p>学校自己評価は、本学の目標・計画について、その達成状況及び達成に向けた取組の状況等を把握し、次の項目について評価を行う。基準 1 (教育理念・目的・育成人材像等)、基準 2 (学校運営)、基準 3 (教育活動)、基準 4 (教育成果)、基準 5 (生徒支援)、基準 6 (教育環境)、基準 7 (生徒募集と受け入れ)、基準 8 (財務)、基準 9 (法令等の遵守)、基準 10 (社会貢献)。</p> <p>学校関係者評価委員会は、(1) 学生の保護者、(2) 本学の教育に関係する企業等の関係者、(3) 本学の卒業生、(4) 教育に関する理解及び識見を有する者、(5) その他校長が推薦した者、のうちから学校長が委嘱した者をもって組織され、本学が行った自己点検評価の結果及びそれを踏まえ、今後の改善方針について評価、意見、提案、助言を行う。指摘事項のあった項目については、学校自己評価委員長を中心に学校自己評価委員と関係教職員で改善策を検討し、年度内に実施できるものについては年度内に実施。次年度以降となるものについては、改善案とともに実施時期を検討する。</p>		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
(有)広報企画	R2. 4. 1～ R3. 3. 31	企業等委員
(株)ノーマーク	R2. 4. 1～ R3. 3. 31	企業等委員
(公社)愛知建築士会	R2. 4. 1～ R3. 3. 31	企業等委員
minako.studio	R2. 4. 1～ R3. 3. 31	卒業生

(株)プロセスアピール	R2. 4. 1～ R3. 3. 31	卒業生
セントラル画材(株)	R2. 4. 1～ R3. 3. 31	企業等委員
御菓子所しらいし・今池商店街	R2. 4. 1～ R3. 3. 31	地域等委員
(株)プロセスアピール	R2. 4. 1～ R3. 3. 31	卒業生
(株)山崎デザイン事務所	R2. 4. 1～ R3. 3. 31	企業等委員
学校関係者評価結果の公表方法		
あいち造形デザイン専門学校 WEB サイト 「文部科学省関連文書」 <a href="http://www.design.ac.jp">http://www.design.ac.jp</a>		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

学校案内パンフレットおよびホームページ <a href="http://www.design.ac.jp">http://www.design.ac.jp</a>
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
G P A等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。